

自己評価

学校運営計画 (4月)		評価 (総合)
学校運営方針	たくましい身体と高い知性・道徳性を育成し、国家及び社会の進展に寄与しうる創造性豊かな資質を養う。 努力を楽しみながら、志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、健康でたくましい生徒の育成に努める。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標 具体的方策	
ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の充実と希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応した進路指導を充実させる。 ○ 基本的な生活習慣や学習習慣を確立させるとともに、確かな学力を育成する。 ○ 一人一台タブレット及びベシックタイムの活用により、基礎学力の定着、習慣化を図る。 ○ ICT活用方針に則って授業効率の向上を図るとともに、魅力ある授業を展開する。 ○ 大学訪問等の企画により国公立大、地元難関私立大学等への挑戦意欲を高め、進学実績を伸ばす。 ○ 周辺地域との連携を強化し、課題解決を図る方策等を考察させ、希望進路の実現に生かす。 	
	厳しさの中にも温かみのある生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心の教育の推進、教育相談やカウンセリングの充実を図る。 ○ 生徒会活動や部活動の活性化を図り、社会性やリーダー性を身につけた生徒を育成する。 ○ 種々の講演会を通じて、社会に目を向け貢献ができる生徒（人材）の育成に資する。 ○ 道徳教育や人権教育を通じて、人権尊重の精神を育成するとともに、人権感覚の更なる向上を図り、いじめの撲滅に努める。
	組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページの活用等広報活動を充実させ、保護者や地域からの理解・協力を得る。また、PTAや同窓会、学校周辺地域等との連携を深める。 ○ 教育公務員としての資質能力（危機管理能力や人権感覚等）の向上を図り、学校の組織力を高める。あわせて不祥事防止と体罰によらない指導の徹底を図る。

学校関係者評価

評価 (総合)	学校関係者評価
	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや不適切である D：不適切である

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
学習指導	学習習慣の確立を図り、学習意欲と確かな学力を育成する。	「スケジュールノート」に毎日の家庭学習時間の記録を取る指導を行う。 ICTを活用した授業づくりの推進により学習意欲につなげる。		
	生徒の学力向上に向けた授業改善を行う。	BT（学習の時間）を活用し、学力の向上を図る。 学期に一度、授業アンケートを実施し、授業改善に生かす。		
	主体的に学びに向かう態度を育成する。	「思考力」「判断力」「表現力」の育成を図るため、発表の機会を増やす。 授業では教科横断型授業につながるよう工夫する。		
企画広報	中学校、PTA、同窓会と連携し開かれた学校づくりに寄与する。	教員が理解をして生徒に説明できるよう、わかりやすい要項を作る。 生徒が満足感を得られるよう、生徒会と協力して企画運営を行う。		
	諸行事の企画・運営及び広報活動（HP、学校案内パンフレット等）の内容充実を図る。	部活動を中心として、中学校や地域と繋がる活動を積極的に行う。 ホームページやポスターの見直しをする。スマホ等でも見やすいホームページを作成する。		
ICT教育推進	タブレットを活用した授業の提案を初め、情報化による校務負担軽減と効率化、ペーパーレス化の充実を図る。	ICT（特にタブレット）を活用した授業例の収集、紹介を行う。 教職員向けのICT研修の充実を図る。		
	職員・生徒の相互理解による人間関係を基盤とした細やかな指導を行う。	各分掌・学年との連携を充実させ、情報の一元化を図る。 生徒との信頼関係を築くため、積極的なコミュニケーションを図る。		
生徒指導	いじめ、問題行動の発生件数をめざし、スマホ等通信機器に関するモラルを身につけさせる。	いじめや学校生活アンケートを行い、実態把握に努める。 スマホ・ケータイ安全教室や防犯教室等を行い、社会モラルについての意識向上を図る。		
	学校行事や部活動に積極的に取り組む態度を育成し、生徒会を中心に学校の活性化を図る。	「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす」教育活動を心がける。 部活動の上位大会への出場を目標に、文武両道の生徒の育成を図る。		
	目標達成に向け課題を明らかにし実効性のある対策を講じる。	小論文指導、課題研究活動を含めた総合的な探究の時間（東プロジェクト）を充実させる。 進路講演会・オープンキャンパスへの参加など積極的に外部に目を向ける指導を行う。		
進路指導	総合型選抜入試への取組を計画的に行う。	職員間で総合型選抜や学校型推薦について、情報や経験の共有を行う。 外部教育機関との交流を図り、そこで得た情報等を共有する。		
	生徒・保護者の要望を把握し、弾力的に対応する。	学力・進路別に応じた補充授業体制を確立する。 生徒と十分な面談を通して、進路意識を高めていく。		
	健康診断等の円滑な実施や教育相談体制を充実させ、生徒自らの心身の健康に関心を持ち、伸長する態度を育成する。	毎月「教育相談週間」を設け、生徒の悩みや不安に対して全教職員で対応する。 教育相談・カウンセリングを充実し、関係部諸機関と連携して生徒の心の健康をサポートする。		
保健	健全で有意義な高校生活を過ごすため、環境整備に努める。	美化コンクール等を通じて生徒が主体となって美化委員会の活性化を図る。 LHR、学年集会等を利用して生徒一人一人の美化意識の向上を図る。		
	ICTを活用した授業の実践などを通じて、教科指導力の向上を図る。	「ICTを活用した授業」をテーマに各教科で研究授業を実施する。 情報化・ICT教育推進委員会との連携を図り、実践内容を共有する。		
研修	各分掌、学年、教科との連携を図り、本校の実態に応じた研修を組織的・計画的に実施する。	研修における事前事後のアンケートを実施し、研修内容の充実を図る。 教科内外を問わず、相互の授業参観を積極的に行うようサポートする。		
	すべての教育活動を通じて人権教育を推進する。	「教科指導を通じた人権教育」の研究を継続し、人権教育の内容を検討充実させる。 特設授業指導案については、新しい教材を取り入れるとともに使いやすいものへと改善する。		
人権教育	教職員の人権意識の一層の向上を図る。	各種校外研修会への積極的な参加を促すと共に、校内研修会を充実させる。 配慮を要する生徒を中心に、職員間での情報交換、連携を密にし、生徒支援の充実を努める。		
	厳しい財政予算の中、効率的な予算の執行を行う。	経済的に厳しい保護者が増えている状況下ではあるが、校納金滞納者の一層の削減を目指す。 待機電力の抑制、こまめな消灯及び節電を呼びかけ経費削減に努める。		
事務	老朽化した施設・設備の安全点検を随時実施することで危険箇所の早期発見・対応に努める。	老朽化している施設の改修を一層進め、生徒・職員の安全を確保する。 定期的な巡回を行い、施設設備の改修、維持管理を行う。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

--

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見

--